

行政官のためのジェンダー主流化政策（2011年度）  
カントリーレポート

1.

氏名：Ms. Keriman Sadikay

国名：コソボ

所属組織：首相府 適正ガバナンス／人権／機会均等／ジェンダー問題対策室

2. 基本情報

コソボは南東ヨーロッパの中央、バルカン半島の中部に位置し、中央ヨーロッパと南ヨーロッパ、アドリア海、黒海を結ぶ要衝である。

面積は 10,908.1 km<sup>2</sup> である。

中央大陸性気候で夏は暑く冬は寒い。人口は約 200 万人である。

3. ジェンダー主流化における 3 つの主要課題／障害

1. マイノリティ女性の教育
2. マイノリティ女性の保健
3. マイノリティ女性の雇用

4. 職務内容

- a. 機会均等とマイノリティの領域における政策立案およびガイドラインの設定
- b. 国際的マイノリティ人権／機会均等の規準について、市民の意識啓発を図るべく、広報キャンペーンや促進活動の企画／実施を支援する。

5. ジェンダー主流化にあたっての課題

マイノリティは日々の生活において差別を受けている。マイノリティ女性はその人生のあらゆる局面で二重の差別に苦しんでいる。

6. 上記課題選定の理由

子どもたち／障害者／女性／マイノリティといった人々は最も脆弱かつ疎外された集団であり、彼らが欧州の規準／目標に適う生活を送れるようにするためには個別の対策を必要とする。男女共同参画とマイノリティとは別個の問題として捉えるべきであり、女性でありかつマイノリティとなれば社会的に二重の差別に苦しむといわれる。よって世界各国ではこのような集団に対し積極的差別などのアクションがとられ、教育／医療／雇用等の分野における改善が行われている。これらの分野での差別がマイノリティ女性が直面する最大の課題である。女性であること自体が障害であり、加えて、異なる宗教／文化／しきたりを持ち、異なる言語集団に属し、とりわけ自分の権利について無知であることでその差別がさらに深刻化している。

アクションプランで展開する活動は、マイノリティ女性の権利を社会的に強化するべきだという認識を拡大浸透させることで、その窮状緩和を目指すものである。

## 7. セミナーから得た知識とスキル

日本のような先進国が実施するジェンダー主流化政策研修は、女性の権利について知り、先進国における経験を学ぶ大変有意義な機会であった。また他の参加国の行政官との経験の共有ができるという点も大変有益であった。本研修で得た知識を自国にて職務を通じて適用し、広めていきたい。本研修で学んだことは日常業務にも大いに役立つであろう。

## 8. ジェンダー主流化に関するアクションプラン

- (1) プロジェクトタイトル：コソボにおけるマイノリティ女性のエンパワーメント
- (2) 期間：2011年10月
- (3) 対象地域：コソボ
- (4) 受益者層（ターゲットグループ）：コソボにおけるマイノリティ女性
- (5) 上位目標：コソボにおけるマイノリティ女性のエンパワーメントが促進される。
- (6) プロジェクト目標：差別禁止法に関するマイノリティ女性の意識が向上する。
- (7) 活動：
  1. 行政官とマイノリティ女性を対象に、中央レベルでの差別禁止法に関する研修を実施する。
  2. マイノリティ女性と担当官を対象に、地方レベルでの差別禁止法に関する研修を実施する。
- (8) 成果：
  1. 中央レベルにおいて、上級行政官が差別禁止法について情報を獲得している。
  2. 地方レベルにおいて、マイノリティ女性と行政官が差別禁止法について情報を獲得している。